

# ティルト機構付フルリクライニング車いす

Elise  
エリゼ

取扱説明書

保存用  
保証書付



MATSUNAGA

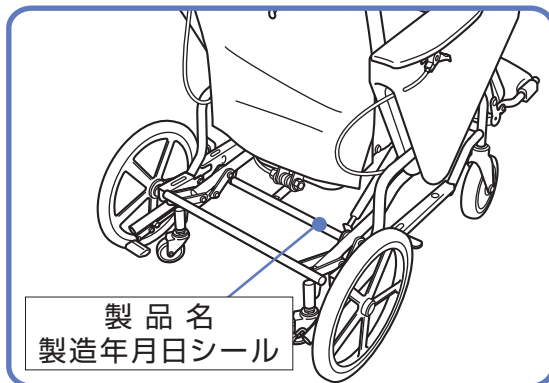
このたびは、(株)松永製作所の車いすをお買い上げいただき、ありがとうございます。

この取扱説明書には、お客様が安全に正しくご使用していただくために必要な注意事項や正しい使い方が説明してあります。

ご使用になる前に、必ずお読みください。

また、保証書(裏表紙)が付いておりますので、紛失しないように大切に保管してください。

車いすが、使用者の身体に合わない状態で乗らないでください。健康をそこなう恐れがあります。そのような場合は、購入されたお店にご相談ください。



購入された製品の機種名をご確認ください。

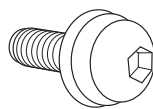
機種名は、左記位置に表示してあります。

- お買い上げの製品は、改良などにより、この「取扱い説明書」の内容と一部異なる場合があります。
- ご不明な点がございましたら、お買い上げの販売店または、直接弊社までお問い合わせください。

## 付属品



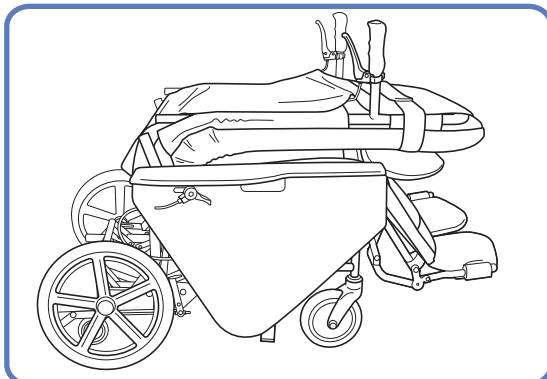
取扱説明書



ボルト(M6×15) 2本



## 〈梱包状態〉




箱から出した時に表面のキズ、フレームのゆがみがないか、あるいはダンボール箱にへこみ、キズがないか確認してください。


異常があれば、お買い上げの販売店、または、弊社までご連絡ください。

# 目次


<b>安全にお使いになるためのご注意</b> .....	2
<b>各部の名称</b> .....	4
<b>機能説明</b> .....	5
<b>組み立て方法</b> .....	6
<b>安全にお使いになるための使用方法</b> .....	7
フットブレーキ .....	7
フットサポート .....	7
フットサポートの長さ調整 .....	8
アームサポート .....	9
リクライニングの操作方法 .....	10
ティルティングの操作方法 .....	10
座奥行の調整方法 .....	11
シートの調整方法 .....	11
リフトアップの操作方法 .....	12
<b>車いすの使用方法</b> .....	13
介助の方法 .....	13
ご使用の前に .....	15
<b>もしこんなトラブルが発生したときは</b> .....	15
<b>車いすのお手入れの方法</b> .....	16
保管場所・保証・アフターサービス .....	16


# 安全にお使いになるためのご注意

 **警告** この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定されることを示します。

 **注意** この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があることおよび物的損害の発生する可能性が想定されることを示しています。

## お守りいただく内容の説明

 この表示は、してはいけない「**禁止**」内容です。

 この表示は、必ずしていただく「**強制**」内容です。

## 警告

(禁止)



しては  
いけない

■故障、異常のあるときは、直ちに使用を中止してください。  
転倒・転落事故等によるケガの原因となります。

■タイヤの空気圧が少ない状態で、使用しないでください。  
フットブレーキのロックができなくなり、車いすが不意に動き事故等の原因になります。  
また、タイヤのパンク原因になります。

■改造しないでください。  
改造によって車いすの部品の破損、脱落などで安全性が低下して、転倒・転落事故等の原因となります。

■車いすのシートの上で立ち上がらないでください。  
転倒・転落事故等の原因となります。

(強制)



必ずして  
いただく

■車いすへの乗せ降ろし、ベッドなどへの移乗時には必ずフットブレーキを左右両方ロックしてください。  
車いすが動き、転倒事故等の原因となります。

■道路の通行は、必ず右側を通行してください。(歩道がある場合は歩道を通行してください。)  
道路交通法規を守らないと、交通事故等の原因となります。(車いすは歩行者扱いです。)

■側溝の格子蓋や踏切などでご使用される場合は、必ず介助者の方に支えていただいで行ってください。  
車輪が溝にはまって転倒・転落事故等の原因となります。

## 注意

(禁止)



しては  
いけない

■車いすに乗る時、降りる時に絶対にフットサポートの上で立ち上がらないでください。  
車いすがバランスを崩し、転倒・転落事故等の原因になります。

■リフトアップ操作時には車いすから手を離さないようにしてください。  
車いすが動き危険です。

■スピードをつけて(勢いをつけて)、段差を乗り越えないでください。  
乗っている方がバランスを崩し、車いすから転落する危険があります。

■グリップのみで、キャストを上げないでください。  
バックサポートパイプが曲がったり、折れたりして、車いすが破損し、転倒・転落事故等の原因となります。

■ストーブなど火気の近くに置かないでください。  
タイヤがパンクしたり、シートが燃え火災の原因になります。

**(禁止)**



しては  
いけない

- リクライニングした状態で、バックサポートの上に乗らないでください。  
車いすがバランスを崩し、転倒事故等の原因となります。また、バックサポートパイプが曲がったり故障の原因となります。
- アームサポートを持って、車いすを持ち上げないでください。  
ケガ、転倒・転落事故等の原因となり大変危険です。
- 車輪が回転しているときは、手や指を差し込まないでください。  
手や指をはさんで、ケガをする原因となります。
- バックしながら、急停止しないでください。  
転倒事故等の原因となります。
- 使用者が車いすに乗っている状態でグリップを持って吊り上げないでください。  
パイプが外れたりして、転倒・転落事故等の原因となります。
- 走行中、身体を乗り出さないでください。  
バランスが不安定になり、転倒・転落事故等の原因となります。

**(強制)**

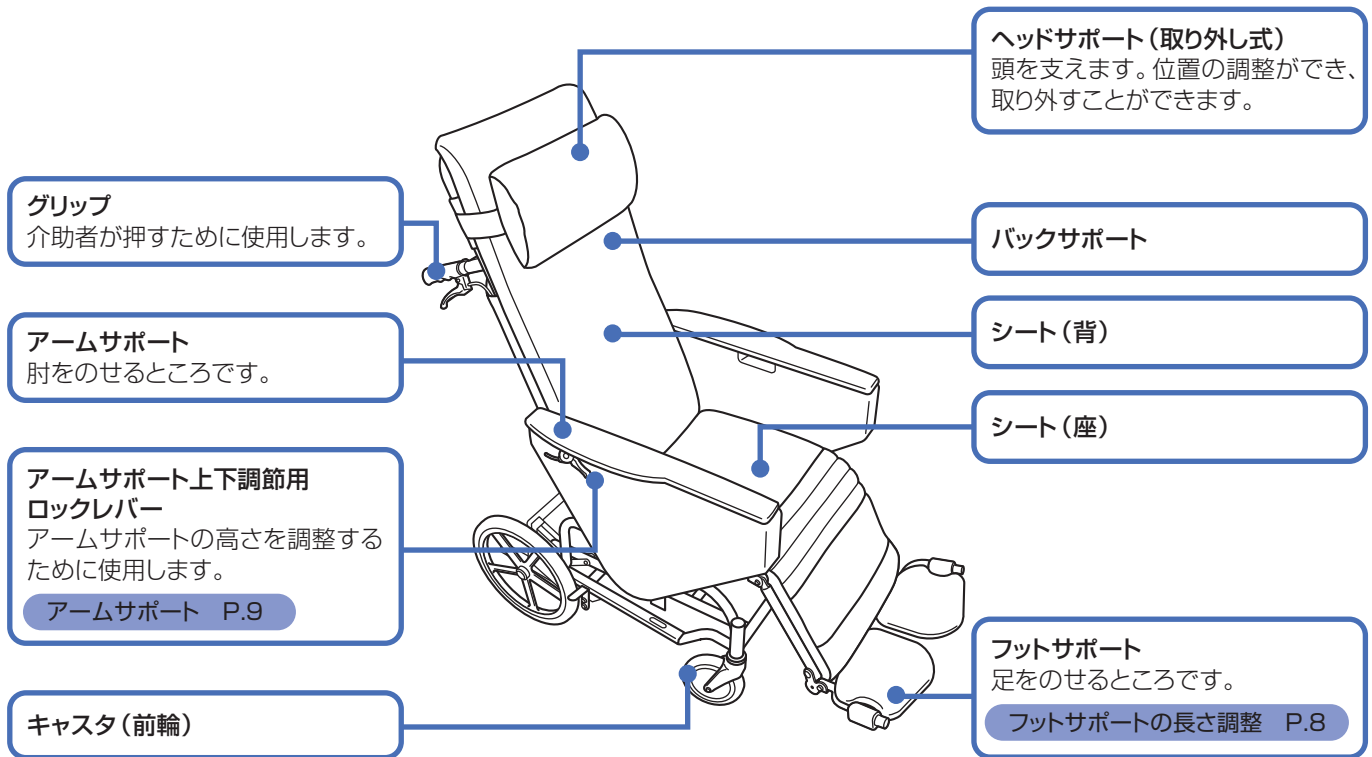


必ずして  
いただく

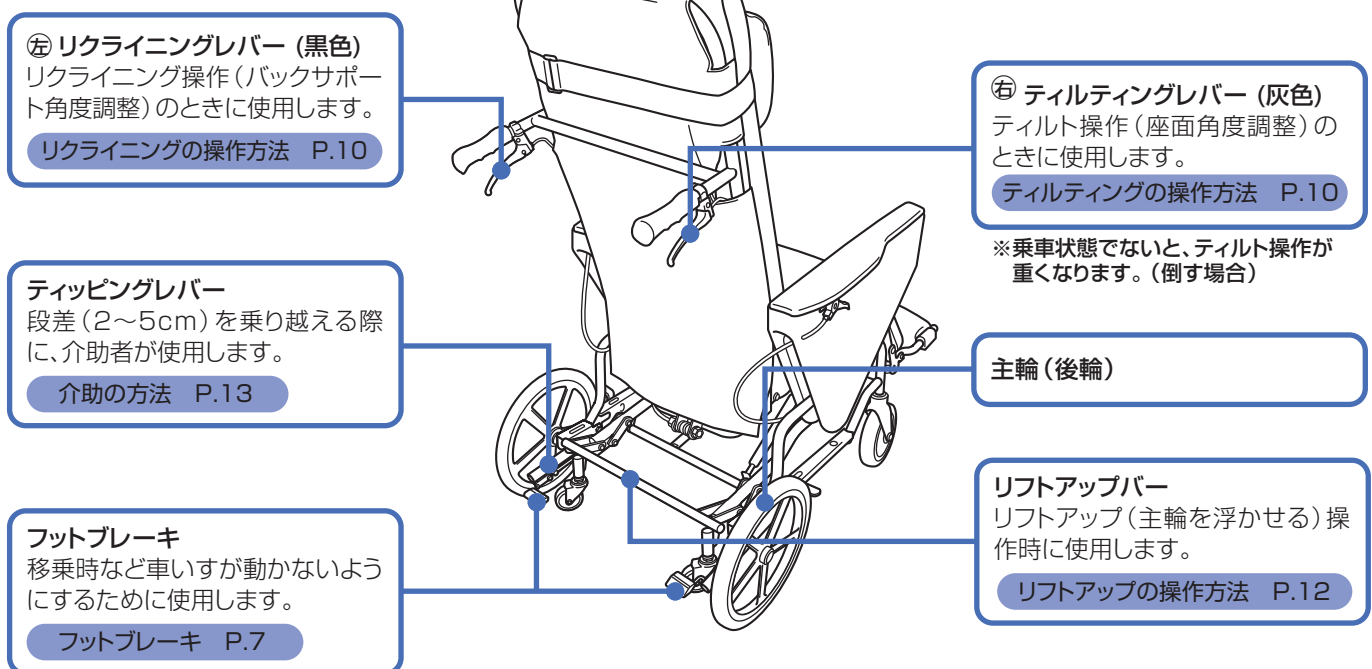
- アームサポートのロックが確実にされていることを確認してください。  
アームサポートの高さが急に変わり、手などをはさんだり、転落などの事故等原因になります。
- 車いすに人が乗っている状態でアームサポートの高さ調整を行う場合には、手や衣服などはさまっていないか確認しながら操作してください。  
手や足などケガをする恐れがあります。
- 車いすに人が乗っている状態でリクライニング操作を行うときには、乗っている方の体重が後方にかかるので、しっかりと支えてから行ってください。  
バックサポートパイプなどで、介助者の顔などを打ったり、車いすが後方に転倒し、ケガをする危険があります。
- 車いすに人が乗っていない状態でティルティング操作を行うと、レバーを握るだけで、バックサポートが自動的に起き上がりますので、注意して操作してください。  
バックサポートパイプなどで、介助者の顔などを打ちケガをする危険があります。
- 車いすに人が乗っていない状態で、ティルティングの倒す操作を行うと、非常に重くなりますが、勢いをつけず、ゆっくり確実に支えて操作してください。  
キャストが浮き、後方に転倒する場合があります。
- ブレーキペダルとリフトアップバーを間違えないように注意してください。  
リフトアップ操作時にはフットブレーキが効かず車いすが動きます。
- バックサポートを起こしてから段差を乗り越えるようにしてください。  
乗っている方がバランスを崩し、車いすから転落する危険があります。
- フットサポートの上に足が乗っているか、確認して走行してください。  
足がキャストや地面に触れてケガをする危険があります。
- 移動中はつま先が壁などの障害物に当たらないように確認してください。  
足をケガする危険があります。
- フットサポートが固定されているか、確認してから使用してください。  
フットサポートが脱落し事故等の原因になります。
- フットサポートの高さは地面より5cm以上でご使用ください。  
路面の凹凸や障害物にフットサポートが引っかかり急に車いすが止まり、転倒事故等の原因になります。
- 坂道を下るとき介助者の方は、下り坂の下側に立ち、ゆっくり確認しながら後ろ向きに走行してください。  
前向きで下ると、乗っている人がずり落ちたり、前のめりとなり、転倒・転落事故等の原因となります。
- 側溝の格子蓋、踏切のレール溝にキャストが落ち込まないように注意してください。  
車いすが急に止まり乗っている人の体が前方に傾き、転落・転倒事故等の原因となります。  
このような、環境条件でご使用される場合は、ワイドキャスト(オプション)をご使用ください。

# 各部の名称

## 前部

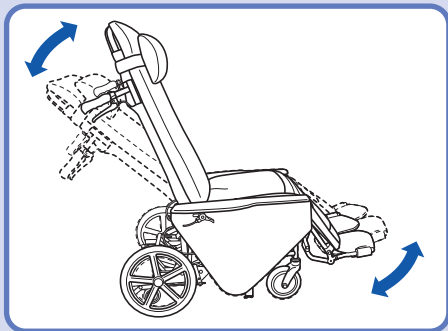


## 後部



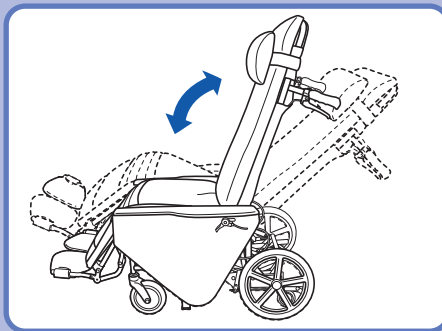
# 機能説明

## 〈リクライニング〉



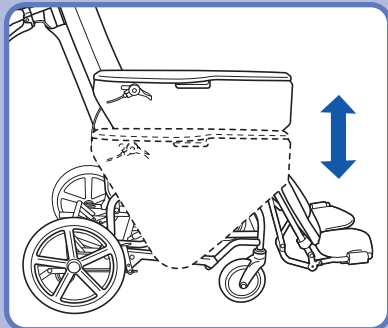
バックサポート角度を調節することができます。  
フット・レッグサポートは連動します。

## 〈ティルティング〉

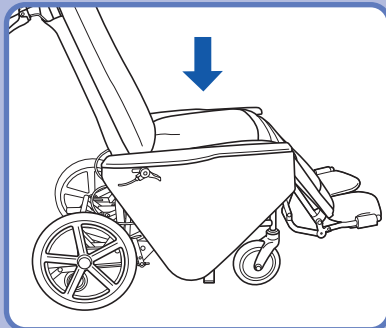


バックサポート角度を保ったまま座面の角度  
を調節することができます。

## 〈アームサポート〉

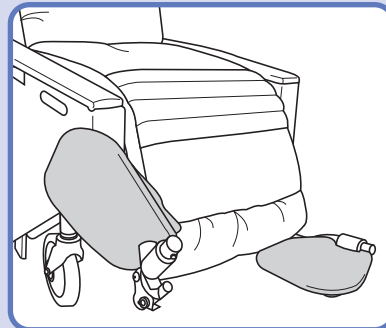


アームサポートの高さを調節することができ、  
使用者の体格に合わせるすることができます。



車いすへの移乗の時にアームサポートが邪魔に  
ならないように、座面の高さまで下がります。

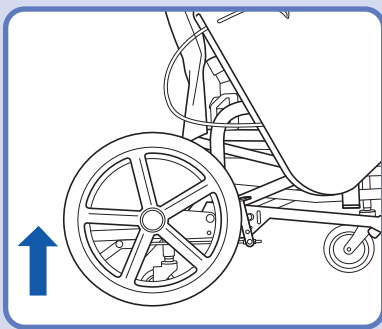
## 〈フットサポート〉



車いすへの移乗の時にフットサポートが  
介助者の邪魔になりません。

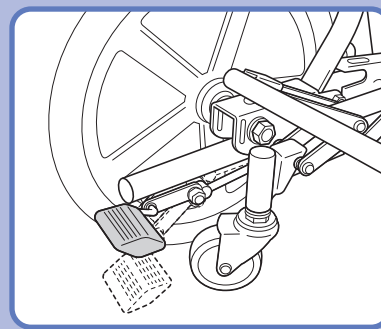
## 〈リフトアップ〉

車いす主輪を浮かせることで、真横にも移動できます。ベッドなどへ近づく時に何度も切り返す必要がありません。また、狭いスペースでも小回りが効きます。



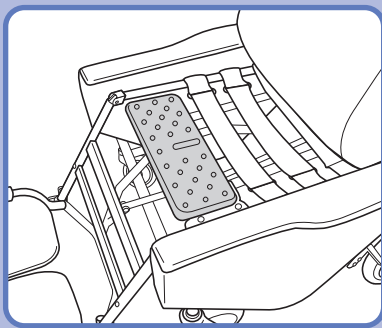
## 〈フットブレーキ〉

介助者が操作しやすい足踏み式のブレーキです。



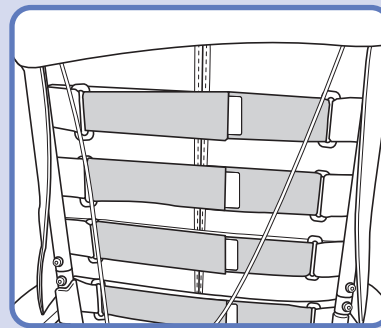
## 〈座奥行調整〉

使用者の体格に合わせて座奥行を調整することができます。



## 〈クッション&張り調節ベルト〉

ベルトの張り具合を調節し、使用者の姿勢に合わせるすることができます。また、厚手のクッションを使用し、快適にお座りいただけます。



# 組み立て方法

## 使用工具

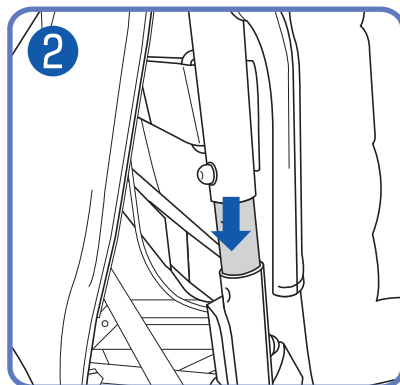
・付属の対辺4mm六角レンチ

※適正トルク  
6Nm

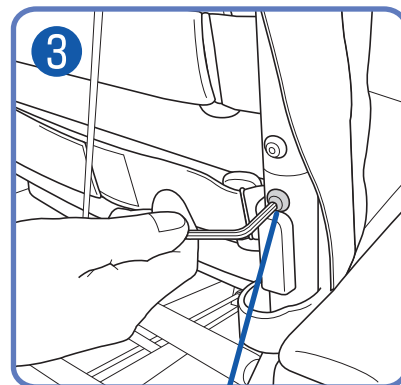
① バックサポートを持ち、矢印方向に起こしてください。



② 左右両側のパイプをゆっくりと同時に挿入します。



③ 付属のボルトを左右共締めてください。



④ バックサポートがぐらついたりしないか、しっかりと固定されていることを確認してください。

⑤ タイヤの空気圧を確認し、ブレーキの効き、各機能、各部の点検を行ってから使用してください。

⑥ ワイヤーが、折れたりねじれたりしないように注意して、組み立ててください。

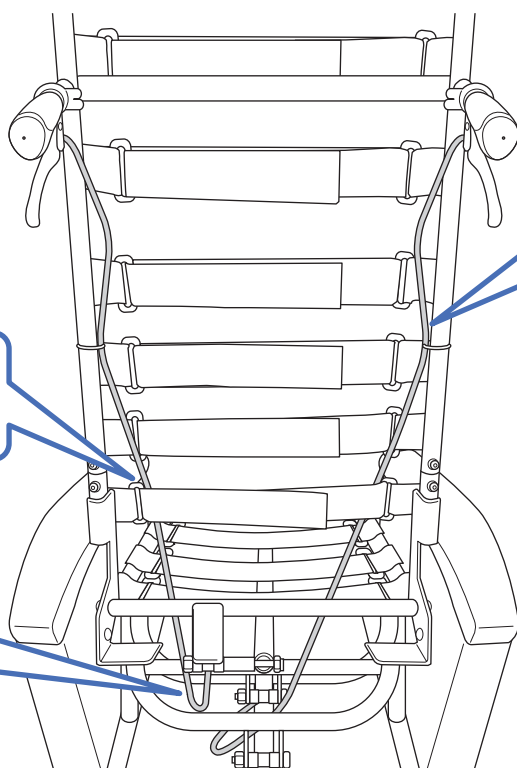
付属のボルト  
M6×15

## ⚠ 注意

●組み立てたバックサポート部がしっかりと固定されているか、必ず確認してください。  
(バックサポート部が破損し、転倒・転落事故等の原因になります。)

していただく

※組み立てる際には、リクライニングとティルトのワイヤーの位置を下記のようにしてください。  
ワイヤー位置が異なると、リクライニング（ティルト）操作した場合にワイヤーが引っ張られ、ロックが固定されない場合や、ワイヤーを切断する恐れがあります。



バックサポートパイプの内側を通します。

張り調整ベルトの間を通します。

ワイヤーのねじれ・折れ曲がりがないか確認します。

## ⚠ 注意

●リクライニング（ティルト）操作を行い、ワイヤーの挟み込みがないか確認してください。

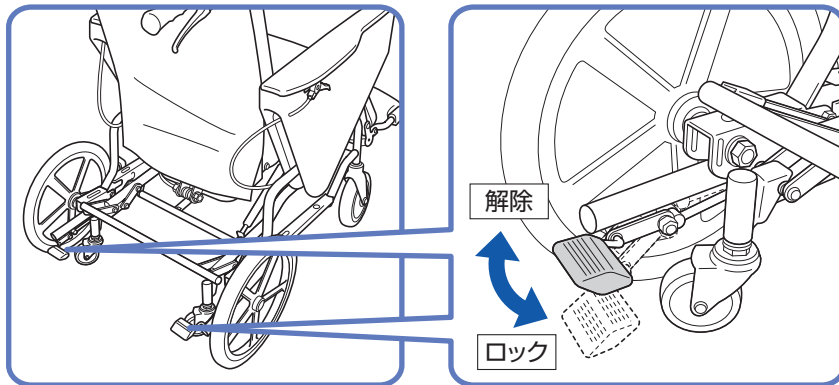
していただく



# 安全にお使いになるための使用方法

## フットブレーキ

●介助者が操作しやすい足踏み式のブレーキです。ペダルを踏み込むとロックします。



### 警告

- タイヤの空気圧が少ない状態で使用しないでください。  
(フットブレーキが効かず車いすが動き、事故等の原因になります。)

してはいけない

### 警告

- 車いすへの乗せ降ろし、ベッドなどへの移乗時には必ずフットブレーキをロックしてください。
- フットブレーキは必ず左右両方ロックしてください。  
(車いすが動き、転倒・転落事故等の原因となります。)

していただく

### 警告

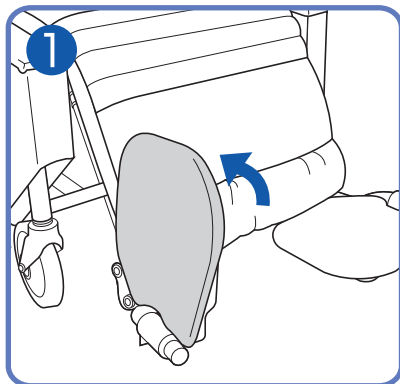
- リフトアップした状態で、車いすへの乗せ降ろし、ベッドなどへの移乗はしないでください。  
(リフトアップ操作時には、フットブレーキがロックされていても、主輪が浮いているため、車いすが動きます。)

してはいけない

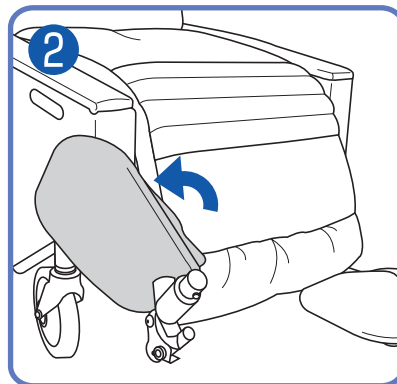
## フットサポート

●フットサポートが折りたたむことができるので、介助者の邪魔になりません。

① フットサポートを矢印方向に上げます。



② さらに矢印方向に回転させることができます。



●使用時には逆の手順でフットサポートを出してください。

してはいけない

### 警告

- フットサポートは、アームサポートより外側になるようにしてください。  
アームサポートを上下スライドさせる時に、挟まるときがあり破損の原因になります。
- 折りたたんだ状態で、リクライニング、ティルティング操作を行わないでください。

### 注意

- 車いすへの移乗時に絶対にフットサポートの上で立ち上がらないでください。  
(車いすがバランスを崩し、転倒・転落事故等の原因になります。)

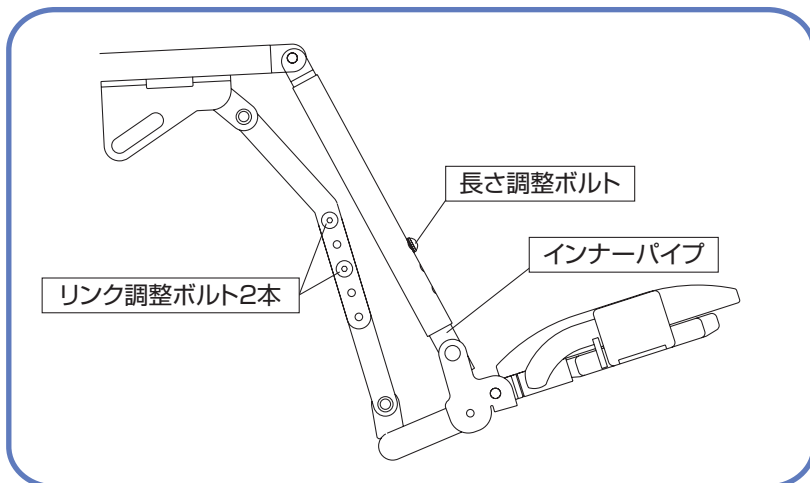
してはいけない

## フットサポートの長さ調節

使用工具

・付属の対辺4mm六角レンチ

●フットサポートの長さを330, 350, 370mmの3段階に調整することができます。

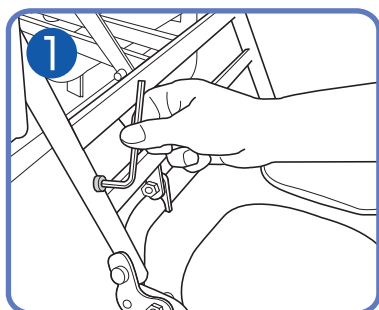


### ⚠ 注意

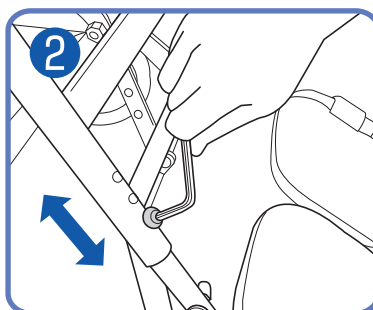
- 長さを調節した後、フットサポートがしっかり固定されているか必ず確認してください。  
(フットサポートが脱落・破損したり、ケガの原因になります。)

していただく

① フット・レッグサポートパイプの長さ調整ボルトを取り外します。(左右各1本)

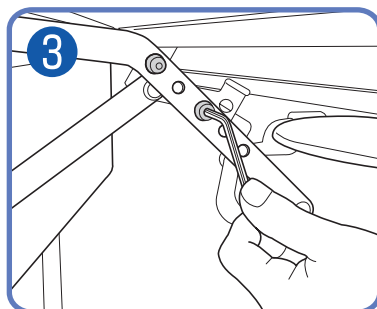


② インナーパイプをスライドさせ長さを調整しボルトを締めます。

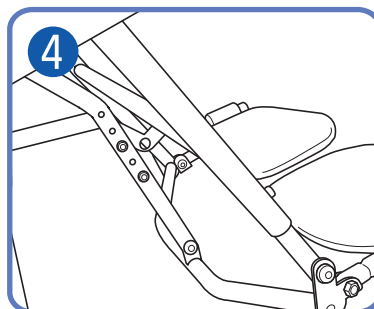


※適正トルク  
6Nm

③ リンク調整ボルトを取り外します。(2本)

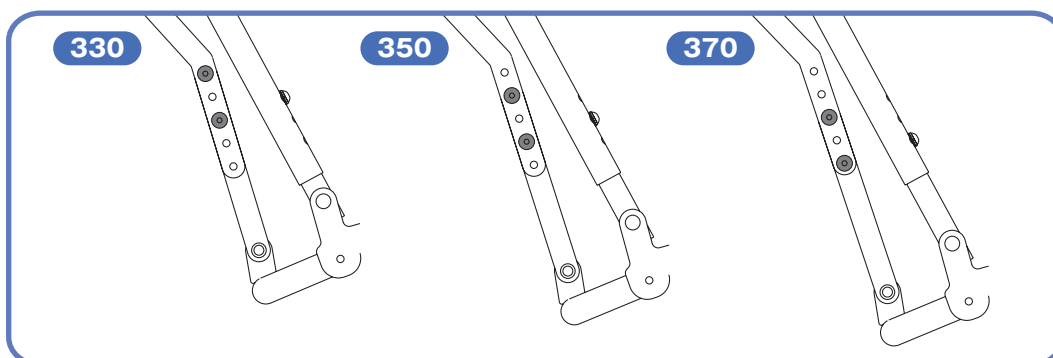


④ 下のボルト位置を図のようにフットサポートの長さに合わせて、リンクの長さを調整しボルトを締めます。(2本)



※適正トルク  
6Nm

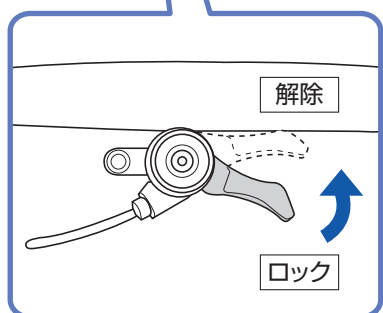
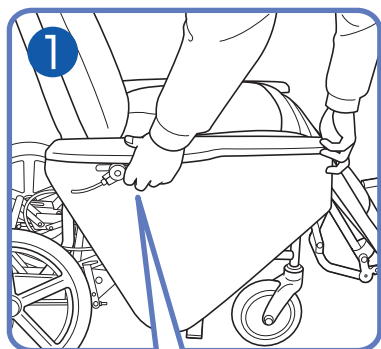
〈ボルト位置〉



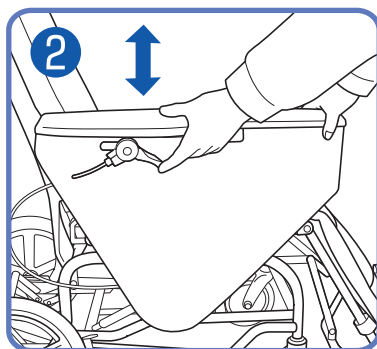
## アームサポート

- アームサポートの高さを0・40～240mmまで10段階(25mmピッチ)に調整することができます。
- ベッドなどへの移乗の際には、座面と同じ高さのアームサポートを下げることができ、介助を楽に行うことができます。

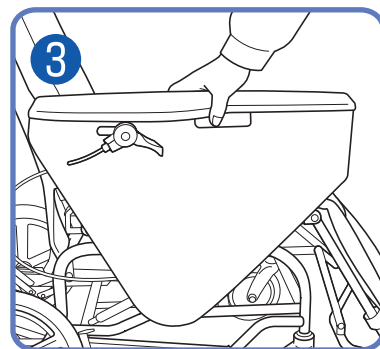
① 片方の手でアームサポートを持ち、もう一方の手でレバーを矢印方向に上げてください。



② アームサポートを適当な位置に上げ(下げ)レバーを離してゆっくりとアームサポートを下げ(上げ)ると「カチッ」と音がしてロックします。



③ アームサポートを上下に動かし、ロックしていることを確認してください。



### ⚠ 注意

- アームサポートのロックが確実にされていることを確認してください。  
(アームサポートの高さが急に変わり、手などをはさんだり、転落の事故等の原因になります。)

していただく

### ⚠ 注意

- 車いすに人が乗っている状態でアームサポートの高さ調整を行う場合には、手や衣服などはさまっていないか確認しながら操作してください。  
(手や足などケガをする恐れがあります。)

していただく

### ⚠ 注意

- 片方の手でアームサポートを支え、もう一方の手でレバー操作してください。  
(アームサポートが下がり、手や足などをはさみケガをする恐れがあります。)

していただく

### ⚠ 注意

- アームサポートを持って車いすを移動しないでください。  
(アームサポートが破損する原因になります。)

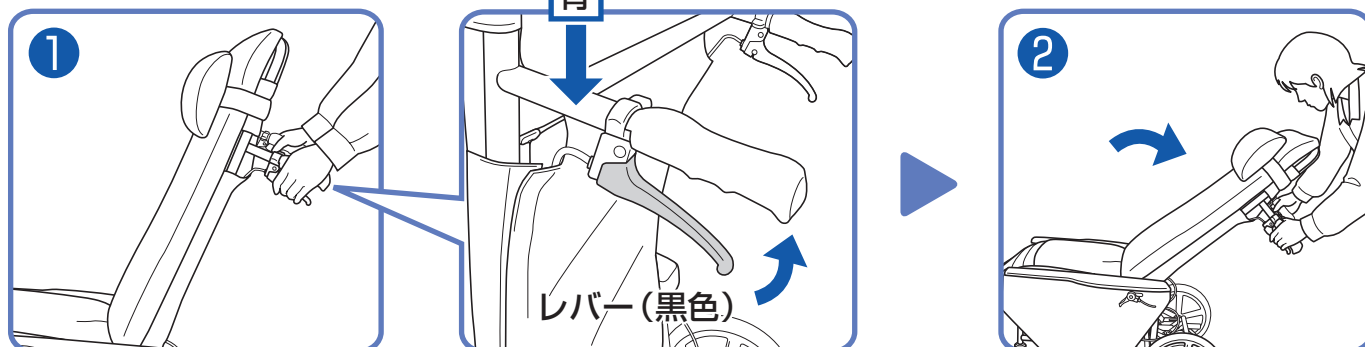
してはいけない

## リクライニングの操作方法

●バックサポートの角度を0~74°(座面に対して100~174°)の範囲で無段階に変更することができます。

① グリップをしっかりと持ち、左側レバーを握ります。

② 適当な角度に倒し(起こし)レバーを離すとその位置で固定します。



### ⚠ 注意

●車いすに人が乗っている状態でリクライニング操作を行うときには、乗っている方の体重が後方にかかるので、しっかりと支えてから行ってください。  
(バックサポートパイプなどで、介助者の顔などを打ったり、車いすが後方に転倒し、ケガをする危険があります。)

していただく

### ⚠ 警告

●車いすに人が乗っている状態で、リクライニング操作又はティルティング操作を行うときには、アームサポートと、シート(背)シート(座)の間にできるすき間に、身体や衣服などが、はさまらないように注意して操作してください。(身体や衣服をはさみケガをする恐れがあります。)

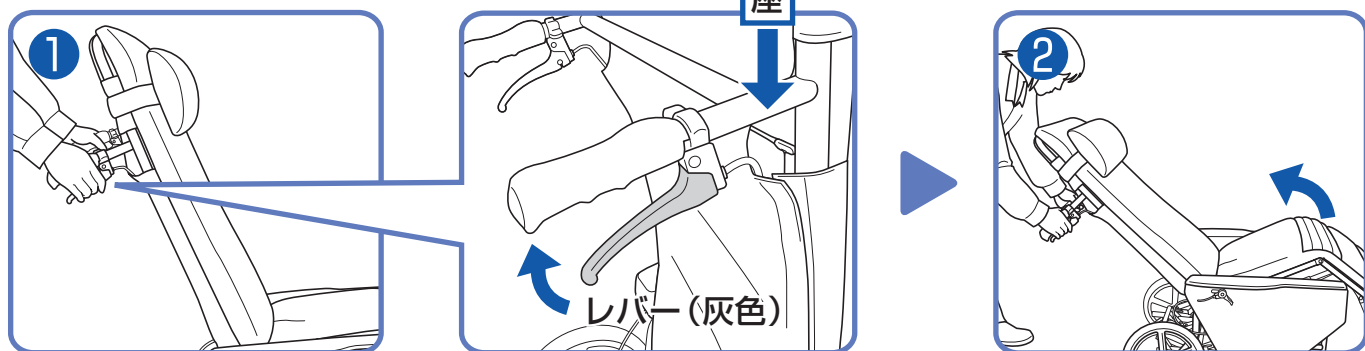
していただく

## ティルティングの操作方法

●座面の角度を0~30°の範囲で無段階に変更することができます。

① グリップをしっかりと持ち、右側レバーを握ります。

② 適当な角度に倒し(起こし)レバーを離すとその位置で固定します。



### ⚠ 注意

●車いすに人が乗っていない状態でティルティング操作を行うと、レバーを握るだけで、バックサポートが自動的に起き上がりますので、注意して操作してください。  
(バックサポートパイプなどで、介助者の顔などを打ちケガをする危険があります。)  
●また、倒す操作を行うと、非常に重くなりますが、勢いをつけず、ゆっくり確実に支えて操作してください。(キャストが浮き、後方に転倒する場合があります。)

していただく

### ⚠ 警告

●車いすに人が乗っている状態で、リクライニング操作、又はティルティング操作を行うときは、アームサポートと、シート(背)シート(座)の間にできるすき間に、身体や衣服などが、はさまらないように注意して操作してください。(身体をはさみケガをする恐れがあります。)

していただく

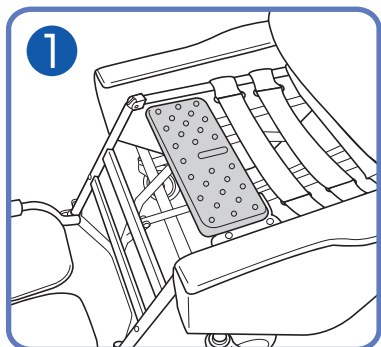
## 座奥行の調整方法

### 使用工具

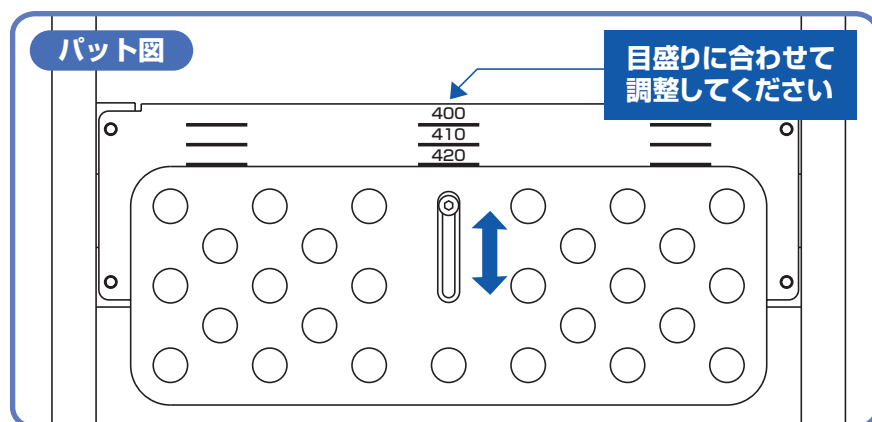
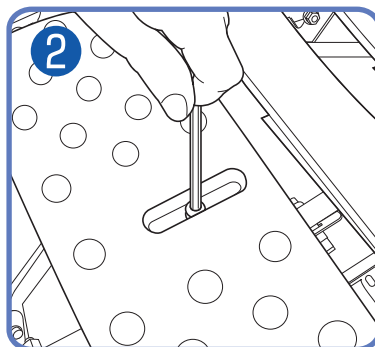
・付属の対辺4mm六角レンチ

●使用者の体格に合わせて、座奥行を400～420mmの範囲で調整することができます。

① シートクッションを取り外します。



② ボルトをゆるめ、パットの位置を調整してください。



③ ボルトを締めてください。

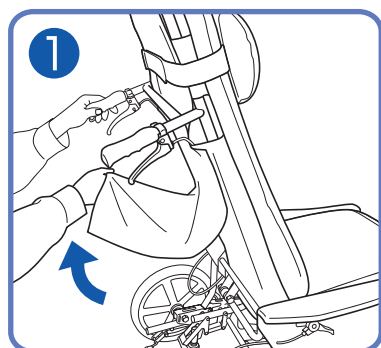
※適正トルク 4Nm

## シートの調整方法

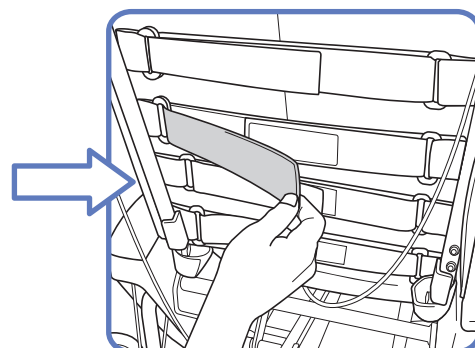
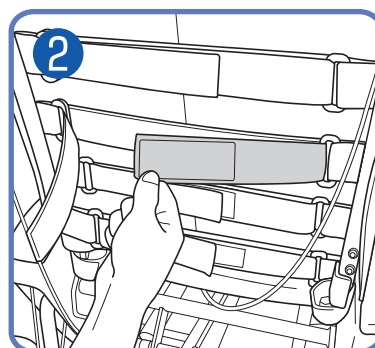
●ベルトの張り具合を調整し、使用者の姿勢に合わせることができます。

〈張り調整ベルト〉 ●車いすに人を乗せた状態で、張り調整を行うことができます。

① 背シート後側のカバーをめくります。



② 張り具合を1本ずつ調整します。  
ベルトは、まず右側を貼り、次に左側を貼ってください。



〈座〉 ●車いすから一度降りていただき調整してください。

① クッションをめくります。

② 張り具合を調整してください。

**注意**

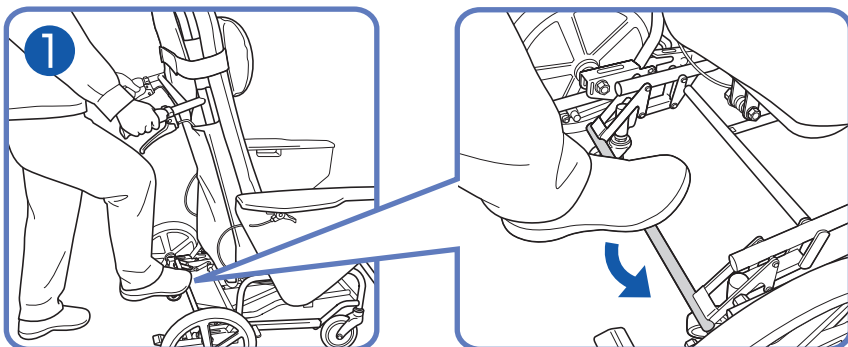
●ゆるめに張るとフレームと干渉することがありますので、確認してください。

していただく

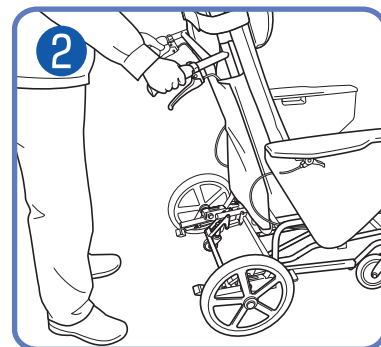
## リフトアップの操作方法

- 主輪を浮かせることで、真横にも移動することができます。ベッドなどへの移乗の際に、何度も切り返す必要がありません。また、狭いスペースでも小回りが効きます。

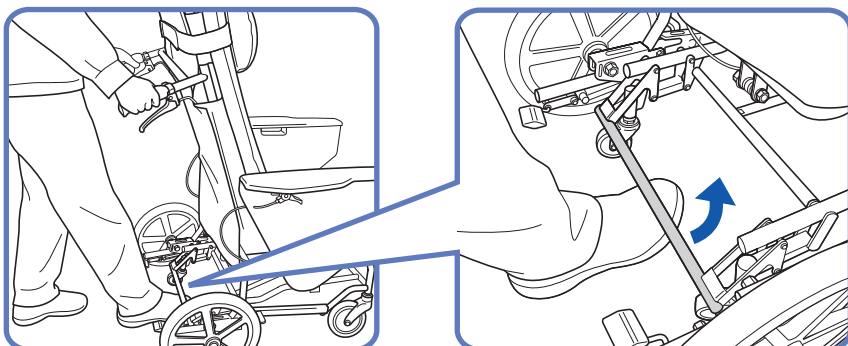
- ① グリップを持ち、車いすが動かないようにしながら、リフトアップレバーを踏み込みます。



- ② 主輪が浮いたことを確認し、移動してください。



- 戻す時も、車いすが動かないように、グリップを持ち、レバーを上げてください。



### ⚠ 注意

- リフトアップ操作時には車いすから手を離さないようにしてください。  
(車いすが動き危険です。)

していただく

### ⚠ 注意

- リフトアップした場合には、フットブレーキがロックされていても、主輪が浮いているため車いすが動きます。人の乗せ降ろしなどの場合には、リフトアップを戻し車いすが動かないことを確認してから行ってください。

していただく

### ⚠ 注意

- ブレーキペダルとリフトアップバーを間違えないように注意してください。  
(リフトアップ操作時にはブレーキが効かず車いすが動きます。)

していただく

### ⚠ 注意

- アームサポートを持って車いすを移動しないでください。  
(アームサポートが破損する原因になります。)

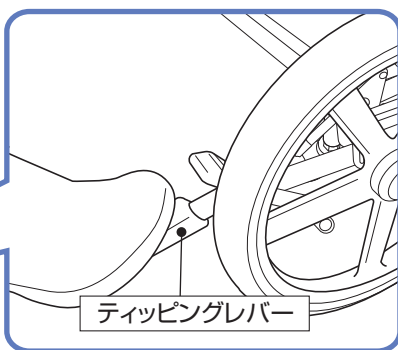
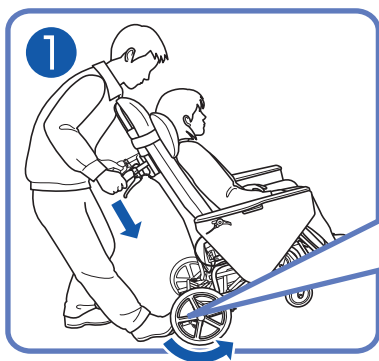
してはいけない

# 車いすの使用方法

## 介助の方法

### 2~5cmの段差を乗り越える場合

① ティッピングレバーを踏みグリップを押し下げ  
キャストを上げてください。



② キャスタを段差に乗せて  
ください。



③ 主輪を浮かし乗り越えて  
ください。



### ⚠ 注意

●バックサポートを起こしてから段差を乗り越えるようにしてください。  
(乗っている方がバランスを崩し、車いすから転落する危険があります。)

していただく

### ⚠ 注意

●スピードをつけて(勢いをつけて)、段差を乗り越えないでください。  
(乗っている方がバランスを崩し、車いすから転落する危険があります。)

してはいけない

### ⚠ 注意

●グリップのみで、キャストを上げないでください。  
(バックサポートパイプが曲がったり、折れたりして、車いすが破損し、転倒・転落事故等の原因となります。)

してはいけない

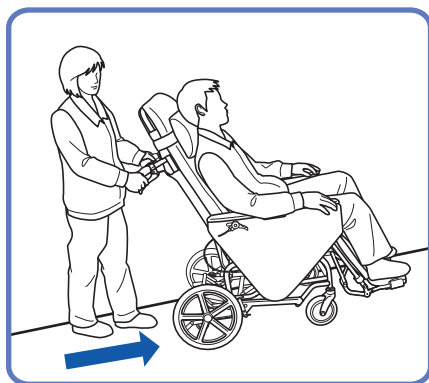
### 5cm以上の段差の場合

乗っている方を車いすから降ろし、車いすのみを4~5人でフレーム固定部を持って持ち上げ移動するようにしてください。

## 坂道の場合

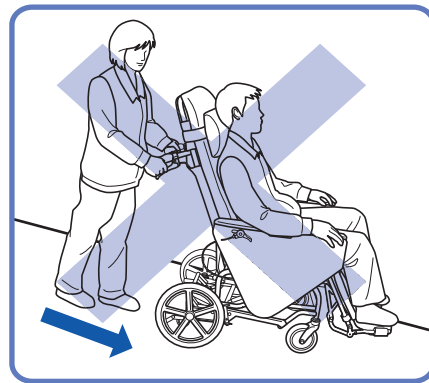
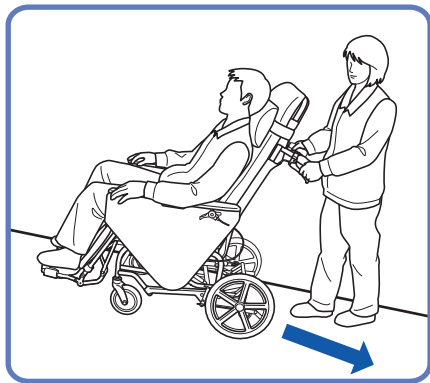
### 〈登り坂〉

ゆっくりと注意し前進してください。



### 〈急な下り坂〉

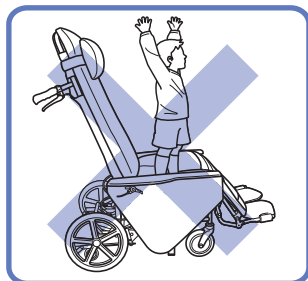
下り坂の下側に立ち、ゆっくり確認しながら後ろ向きに走行してください。



## ⚠ 注意

- 必ず車いすをしっかりと支え、ゆっくりと走行してください。
- 坂道を下るとき介助者の方は、下り坂の下側に立ち、ゆっくり確認しながら後ろ向きに走行してください。（前向きで下ると、乗っている人がずり落ちたり、前のめりとなり、転倒・転落事故等の原因となります。）

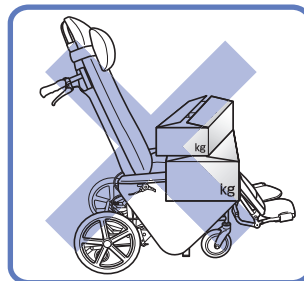
していただく



## ⚠ 警告

- 車いすのシートの上で立ち上がらないでください。（転倒・転落事故等の原因となります。）

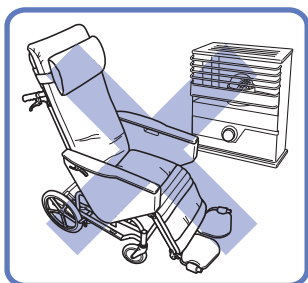
してはいけない



## ⚠ 注意

- 車いすで荷物を運んだりしないでください。

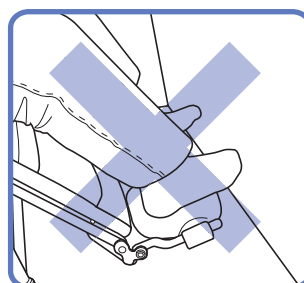
してはいけない



## ⚠ 注意

- ストーブなど火気の近くに置かないでください。（タイヤがパンクしたり、シートが燃え火災の原因となります。）

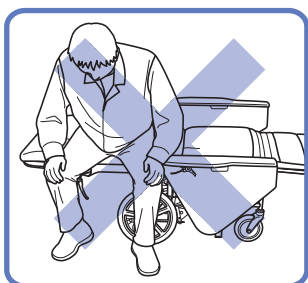
してはいけない



## ⚠ 注意

- フットサポートの上に足が乗っているか、確認して走行してください。（足がキャスタや地面に触れてケガをする危険があります。）
- 移動中はつま先が壁などの障害物に当たらないように確認してください。（乗っている人がケガをする恐れがあります。）

していただく



## ⚠ 注意

- リクライニングした状態で、バックサポートシートの上に乗らないでください。（車いすがバランスを崩し、転倒事故等の原因となります。また、バックサポートパイプが曲がったり故障の原因となります。）

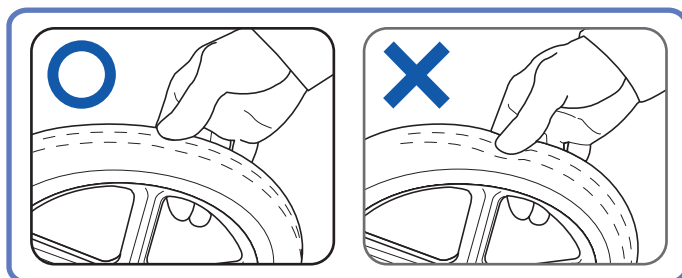
してはいけない



## ご使用前に

●安全にご使用していただくため、次の確認をしてからご使用ください。

- ・タイヤの摩耗・亀裂はないか。 ・タイヤの空気圧は適正か。
- ・フットブレーキに異常はないか。 ・フットブレーキをロックした時、主輪が回転しないか。

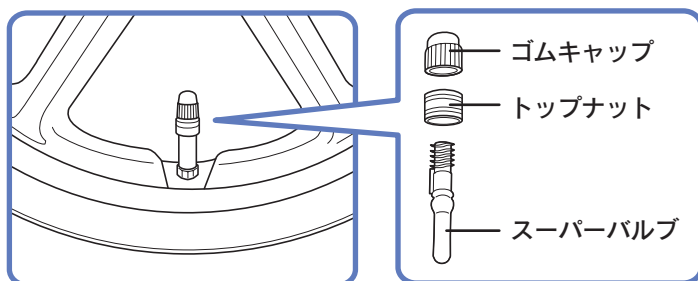


タイヤを親指で押して容易にへこむ場合は、空気を補充してください。

※適正空気圧 350kPa  
(3.5kgf/cm<sup>2</sup>)

タイヤの空気バルブのトップナットが緩んでいないか確認してください。

タイヤの空気がすぐに抜けるときは、スーパーバルブを交換してください。



## 警告

- タイヤの空気圧が少ない状態で、使用しないでください。(フットブレーキのロックができなくなり、車いすが不意に動き事故等の原因になります。また、タイヤのパンク原因になります。)

してはいけない

## もしこんなトラブルが発生したときは

車いすをご使用中に「故障かな」と思われるトラブルが発生した場合、修理を依頼する前に下記項目を確認してください。

トラブル	確認点	対処(参照ページ)
タイヤの空気が少ない	タイヤの空気圧は適正ですか	空気を入れてください
タイヤの空気がすぐに抜ける	タイヤ空気入れ部のトップナットがゆるんでいませんか	締めてください (P15)
	スーパーバルブが劣化していませんか	スーパーバルブを交換してください (P15)
真っすぐに走らない	タイヤの空気圧は適正ですか	空気を入れてください
	キャスト、主輪はなめらかに回転しますか	糸くずや髪の毛などが巻いている場合は取りのぞいてください
走行操作が重い	タイヤの空気圧は適正ですか	空気を入れてください
	キャスト、主輪はなめらかに回転しますか	糸くずや髪の毛などが巻いている場合は取りのぞいてください
フットブレーキが効かない	タイヤの空気圧は適正ですか	空気を入れてください
	タイヤが磨耗していませんか	販売店までご連絡ください
	リフトアップしていませんか	リフトアップした場合はブレーキが効きません。リフトアップを解除してください (P12)
リクライニング操作ができない	ワイヤーのねじれ、引っかかりがありませんか	ワイヤーのねじれ、引っかかりを直してください
	使用者の体や小物などがはさまっていませんか	取り除いてください
ティルト操作ができない	ワイヤーのねじれ、引っかかりがありませんか	ワイヤーのねじれ、引っかかりを直してください
	使用者の体や小物などがはさまっていませんか	取り除いてください
	車いすに人を乗せていますか	車いすに人を乗せていない状態では、操作が重くなります (P10)

■異常、故障のある際は、直ちに使用を中止してください。

# 車いすのお手入れの方法

- 清掃は、水につけたタオルを強くしぼり、泥やホコリを拭き取った後に乾いた布で仕上げ拭きをしてください。揮発性剤（シンナー・ベンジン・アルコール類）では、清掃しないでください。変色したり、劣化の原因となります。ホースなどで、直接水をかけないでください。車輪及びフレーム内部・ブレーキ部等に水滴が残り、錆の原因となります。
- タイヤの空気圧、最適空気圧:350kPaを適正に保ってください。空気圧が少ないときは、補充してください。
- タイヤには、クラックを防ぐ為に老化防止剤が配合されていますので、次のような環境及び薬剤はさけてください。タイヤの劣化を促進させ、ひび割れの発生原因となります。

- オゾン (O<sub>3</sub>)
- 光線 (日光)、熱・伸張等の機械的作用
- 銅・マンガンのような金属の塩、石鹼などの容易に酸化される物質
- シリコン系ワックス (自動車タイヤ用ツヤ出し剤、潤滑剤 (錆落とし含む))

- 車いすに異常がある場合は、取扱店で、点検・修理をおこなってください。その状態で使用されますと、使用中に破損し、事故の原因となります。

- タイヤの劣化・クラック・エアリー漏れ
- ボルト・ナット・ビスの緩み
- 主輪・キャストの変形
- 各部固定部品の変形
- フレームのクラック・曲がり・ガタつき
- フットブレーキの効き具合

## 保管場所

次のようなところでは、保管しないでください。故障の原因となります。

- 雨に濡れるようなところ
- 直射日光が当たるようなところ
- 炎天下なところ
- 湿気の多いところ
- 高温室になるところ

## 保証

- 保証期間は、お買上げ後1カ年です。(本体、付属品共)  
ただし、次の場合は、保証期間中でも有償修理とさせていただきます。
  1. 火災、天災による故障・損傷の場合
  2. 取扱説明書に記載の使用法、ご注意に反するお取扱いによって発生した故障の場合
  3. 無断仕様変更及び、改造による故障の場合
  4. タイヤの磨耗、パンク、シートのやぶれ、リクライニングティルティング用ワイヤー、フットブレーキゴム等の消耗品、及び各部の劣化による故障、損傷の場合
  5. 修理に要した運賃等の諸経費
- この保証書は日本国内のみ有効です。

## アフターサービス

万一故障の場合は、お買上げいただきました販売店、または松永製作所へ保証書ご持参の上、修理をお申しつけください。

### ■お問い合わせ



株式会社 松永製作所  
〒503-1272 岐阜県養老郡養老町大場484  
TEL0584-35-1180(代) FAX0584-35-1270  
URL <http://www.matsunaga-w.co.jp>

## 車いす 点検シート

安全にご使用していただくために、ご自身・お買い求めの販売店(有料)で定期的に点検をしていただくようお願いいたします。

長期間で使用にならなかった場合は、ご使用前に点検をしてください。

点検の結果、異常があった場合はご使用にならず、調整・部品交換をしてからご使用ください。

点検項目		年月日					
		点検者					
キャスタ(前輪)	亀裂・キズの有無						
	キャスタの摩耗						
	スムーズな回転						
フォーク	損傷の有無						
	スムーズな旋回						
後輪	タイヤの空気圧(エアタイヤのみ)						
	タイヤの摩耗						
	スムーズな回転						
	スポークの緩み(自走のみ)						
フレーム	各部キズの有無						
	ボルト・ナットの緩み						
	スムーズな折畳み						
操作部	可動部のがたつき						
	ボルト・ナットの緩み						
連結部	がたつき						
ブレーキ	ブレーキの効き						
シート	シートの破れ・損傷						
	シート固定ネジの緩み						
フットサポート	固定ボルトの緩み						
	プレートの破損						
アームサポート	固定ボルトの緩み						
	パッドの破損						
その他							